

<2020年度 オリンピック・ムーブメント事業>

オリンピック教室

実施報告書

群馬県 高崎市立入野中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「オリンピック・ムーブメント事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和2年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことができるものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 2020年4月～2021年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目
運動の時間(50分)



2コマ目
座学の時間(50分)



※学校の通常の授業時間に実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1コマ目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」
等を伝える



個人またはグループワーク
で話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です

※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間・座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

実 施 内 容

■期 日：2020年11月12日(木)

■ク ラ ス：2年A組(24名)、2年B組(23名)

■オリンピアン：千田 健太 先生(フェンシング)【出場オリンピック／北京大会、ロンドン大会】

■授業のながれ：運動の時間(3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



- ・自己紹介の後、運動と座学の2時間を通してオリンピックバリューについて考え、一緒に学んでいく、と授業の目的を確認。特に運動の時間は、オリンピックバリューを意識して取り組むことを伝えた後、風船を使用してフェンシングのデモンストレーションを披露。
- ・準備体操として、ダイナミックストレッチ、フェンシングの構えと動きを実施。

3. 主運動



- ・MR(マルシェ/ロンペ)リレー4班対抗で2回、ボール運びリレー2班毎2チームで2回実施。
- ・各回終了後、より早くゴールするために作戦タイムを設けた。

4. まとめ



- ・座学の時間は、さらにオリンピックバリューについて深く考える時間にしてほしい、と伝え授業終了。
- ・クラスの希望者(4名)が、競技用の剣で風船割りに挑戦。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・座学の時間も、改めてオリンピックバリューについて深堀していく、と授業の目的を確認、オリンピックの意義やオリンピックシンボル、ピエール・ド・クーベルタン、嘉納 治五郎等について解説。

・オリンピックバリューについて、自身の経験を踏まえ、エクセレンス「卓越」「努力する」「ベストを尽くす」、フレンドシップ「友情」「協力」「チームワーク」、リスペクト「敬意・尊重」「フェアプレー」「感謝」と伝える。

3. グループワーク



発問：夢や目標を達成するために、オリンピックバリューどのように活かせるか、意識したいこと、取り組みたいことを書き出してみよう。

発表：各班の代表者1名が発表。（抜粋、順不同）

エクセレンス「日々努力して、大会や試合でベストを尽くす」「小さいことを積み重ねる」等

フレンドシップ「仲間と欠点を見つけ合いながらお互い助け合う」「自己ベストを出すためにライバル同士で協力する」等

リスペクト「支えてくれる人への感謝」「相手を尊重し、正々堂々と戦う」等

2. オリンピックの価値を伝える



4. まとめ



・今日一緒に考えたオリンピックバリューの考え方は、オリンピックに関わる人だけではなく、全ての人が生活する中で当てはまる要素であり、千田先生自身競技を引退した現在もこの3つの要素を常に大切に思っている。

・今後生活する中で、今日学んだことを思い出してほしい、と伝え授業終了。

■ 集 合 写 真

2年A組



2年B組



■ 記 念 品 贈 呈

2年A組



2年B組



■ 修 了 証 贈 呈

